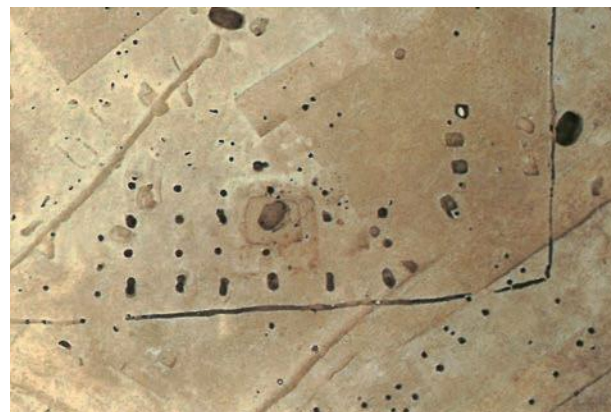


どうのほらいせき 堂ノ原遺跡

- 遺跡番号: No.59
- 所在地: 広野町大字上北迫字堂の原
- 時代: 平安時代 中近世
- 性格: 集落跡
- 遺構: 竪穴建物跡 掘立柱建物跡 礎石建物跡
柱列跡 焼成遺構 土坑 溝跡 炭窯跡
- 遺物: 縄文土器 土師器 須恵器 土師質土器
石器・石製品 金属製品



① 上空から見た堂ノ原遺跡



② 区画溝と掘立柱建物跡の拡大



③ 小鍛冶作業をしていた竪穴建物跡
床に赤く焼けた部分があります。

堂の原地区では、以前から古墳時代の土器が出土することが知られていましたが、常磐自動車道広野インターチェンジまでのアクセス道路建設のための発掘調査で、平安時代や中近世の多くの建物が見つかりました。

平安時代では、遺構の重なりや出土した遺物の年代から、遺跡の性格が徐々に変化していったことがわかりました。8世紀から9世紀初頭には、長方形の区画溝に囲まれた掘立柱建物があり、有力者の屋敷か古代の役所に関する施設と考えられています。9世紀前半には多くの竪穴建物があり、焼く時に失敗した須恵器が出土しているため、須恵器生産に関わる工人（職人）が住んでいたと考えられています。さらに、9世紀中葉には、集落の中で鉄製品を加工する作業（小鍛冶）も行っていたようです。

また、煮炊きする鍋に3本の足が付いた三足土器が出土しています。地方からこのような土器が出土するのはとても珍しく、堂ノ原遺跡は重要な遺跡であることがわかります。

16～17世紀にも村があったこともわかりました。



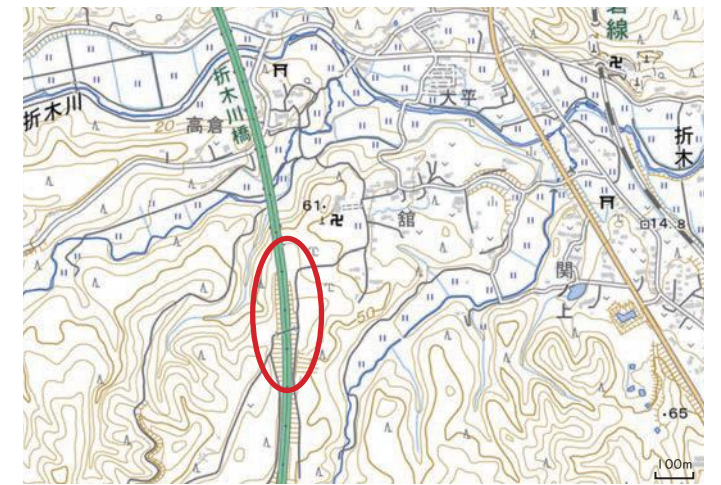
④ 焼く時に失敗した須恵器



⑤ 三足土器

おりきいせき 折木遺跡

- 遺跡番号: No.107
- 所在地: 広野町大字折木字館
- 時代: 旧石器時代 縄文時代 弥生時代
平安時代
- 性格: 集落跡 生産遺跡
- 遺構: 旧石器ブロック 竪穴建物跡 窯跡 土坑
- 遺物: 旧石器 縄文土器 弥生土器 土師器
須恵器



① 須恵器を焼いた窯跡

①の写真提供: 福島県文化財センター白河館

平安時代の中頃(9世紀末～10世紀初頭)の小規模な集落です。竪穴建物跡、土器を作るためにロクロを使った痕跡がある土坑、土師器・須恵器を焼いた窯跡が見つかっているため、土器製作に関わる集落だったようです。折木遺跡で作った土師器や須恵器は、周辺の地域で使われていたと考えられます。

その他に、旧石器ブロック(旧石器時代に石器を作っていた場所)と弥生時代の竪穴建物跡も見つかりました。

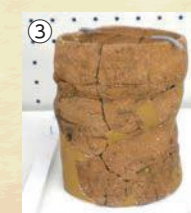
土師器と須恵器

古墳時代から平安時代まで使われていた土器に土師器と須恵器があります。

土師器は、掘りくぼめた穴の中で焼いたため、焼成温度が低く、軟質で、赤褐色をしています。東北地方では、食べ物を盛り付ける器の内面を黒く加工する特徴があります。

須恵器は、丘陵の斜面を利用した窯で焼いたため、焼成温度が高く、硬質で、灰色や青みがかった色をしています。

土師器と須恵器には、食べ物を盛り付ける、煮炊きする、保存するなどの用途によって様々な形がありました。また、堂ノ原遺跡では、塩を作るための筒形土器も見つかっています。



① 土師器
② 須恵器
③ 筒形土器
(堂ノ原遺跡出土)

高倉城跡

- 遺跡番号: No.22
- 所在地: 広野町大字上浅見川字切通・字蛇木
大字折木字高倉
- 時代: 戦国時代～近世
- 性格: 城館跡
- 遺構: 曲輪 小口 土塁 堀切 竪堀 石垣
- 遺物: 陶器 かわらけ 銭貨 金属製品 石製品
土製品



高倉山を中心に築かれた中世の館です。高倉城の中心部は高倉山北側の中腹にあたり、広い曲輪が土塁や石垣で守られています。16世紀前半頃は、広野町周辺は岩城氏の勢力範囲でしたが、すぐ北の檜葉町周辺まで相馬氏の勢力が迫っていました。山の北側に主要な曲輪が配置されたのは、北側からの攻撃に備えるためと考えられます。

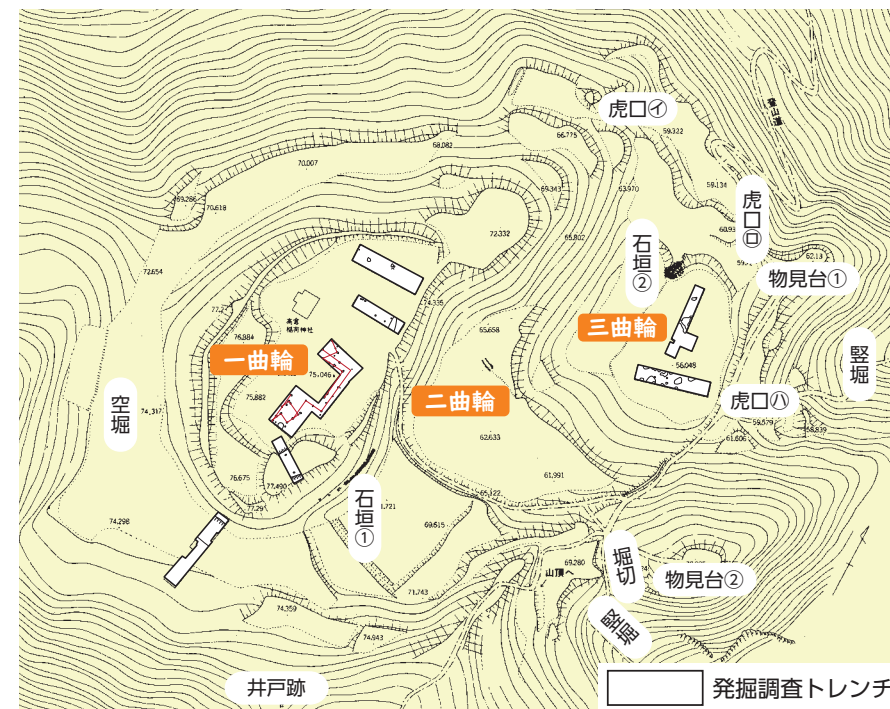
主峰（一番高い部分）から四方に伸びる尾根には、周囲を見張るための櫓や物見台があったと考えられ、今でも敵の侵入を防ぐための堀切・竪堀・土塁などの痕跡が残っています。このような防衛施設や曲輪は、東側の東禅寺館跡まで続いており、高倉城と東禅寺館が一体となって、「防衛ライン」を作っていたと考えられます。



② 石垣(平成7年撮影)

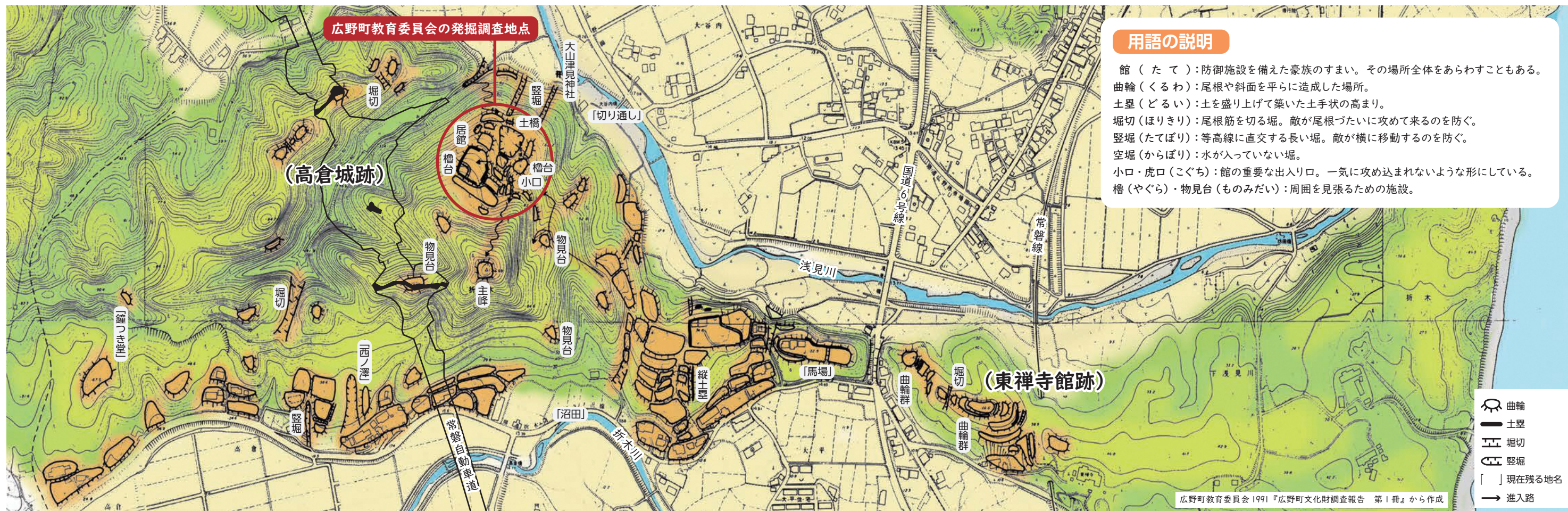


③ 発掘調査の様子(平成6年)



④ 高倉城の中心部の遺構

教育委員会では、平成元年度に山林の中を踏査して曲輪・土塁・石垣・堀切などを確認し、その後、館の中心部と考えられる曲輪で発掘調査を行いました。発掘調査では、多くの柱の穴や深さ5mの空堀の跡が見つかり、石垣や土塁とともに、曲輪の構造を確認することができました。



用語の説明

- 館（たて）：防衛施設を備えた豪族のすまい。その場所全体をあらわすこともある。
- 曲輪（くるわ）：尾根や斜面を平らに造成した場所。
- 土塁（どるい）：土を盛り上げて築いた土手状の高まり。
- 堀切（ほりきり）：尾根筋を切る堀。敵が尾根づたいに攻めて来るのを防ぐ。
- 竪堀（たてぼり）：等高線に直交する長い堀。敵が横に移動するのを防ぐ。
- 空堀（からぼり）：水が入っていない堀。
- 小口・虎口（こぐち）：館の重要な出入り口。一気に攻め込まれないような形にしている。
- 櫓（やぐら）・物見台（ものみだい）：周囲を見張るための施設。

① 高倉城跡と東禅寺館跡の縄張り図 館跡の曲輪や様々な遺構の配置をあらわした図で、平成元年度に調査したものです。

中世の双葉郡南部と高倉城

15世紀頃の双葉郡の地域は、南の岩城氏と北の相馬氏という強い勢力に挟まれ、たびたび戦いがあったと伝えられています。文明6年(1474)に岩城氏が檜葉氏を滅ぼし、戦いで功績のあった猪狩氏が檜葉城(木戸山田館)の城主となります。しかし、天文3年(1534)に檜葉城が相馬氏に攻められて落城すると、猪狩氏は高倉城に移ります。その後、天文21年(1552)より前には岩城氏が檜葉城を奪い返していたと考えられますが、高倉城も岩城領の北を守る重要な館として残っていたと考えられます。やがて、岩城氏は戦国大名となり、富岡町あたりから茨城県高萩市あたりまでを支配するようになりました。岩城氏の居館は、いわき市好間町の大館城にありました。

広野町には、高倉城跡のほかに東禅寺館・折木館・小松館などの館跡が知られています。周辺の市町村にも多くの館跡がありますが、ほとんどが山林のため館の詳しい構造まではわかっていません。



⑤ 双葉郡南部の主な城館

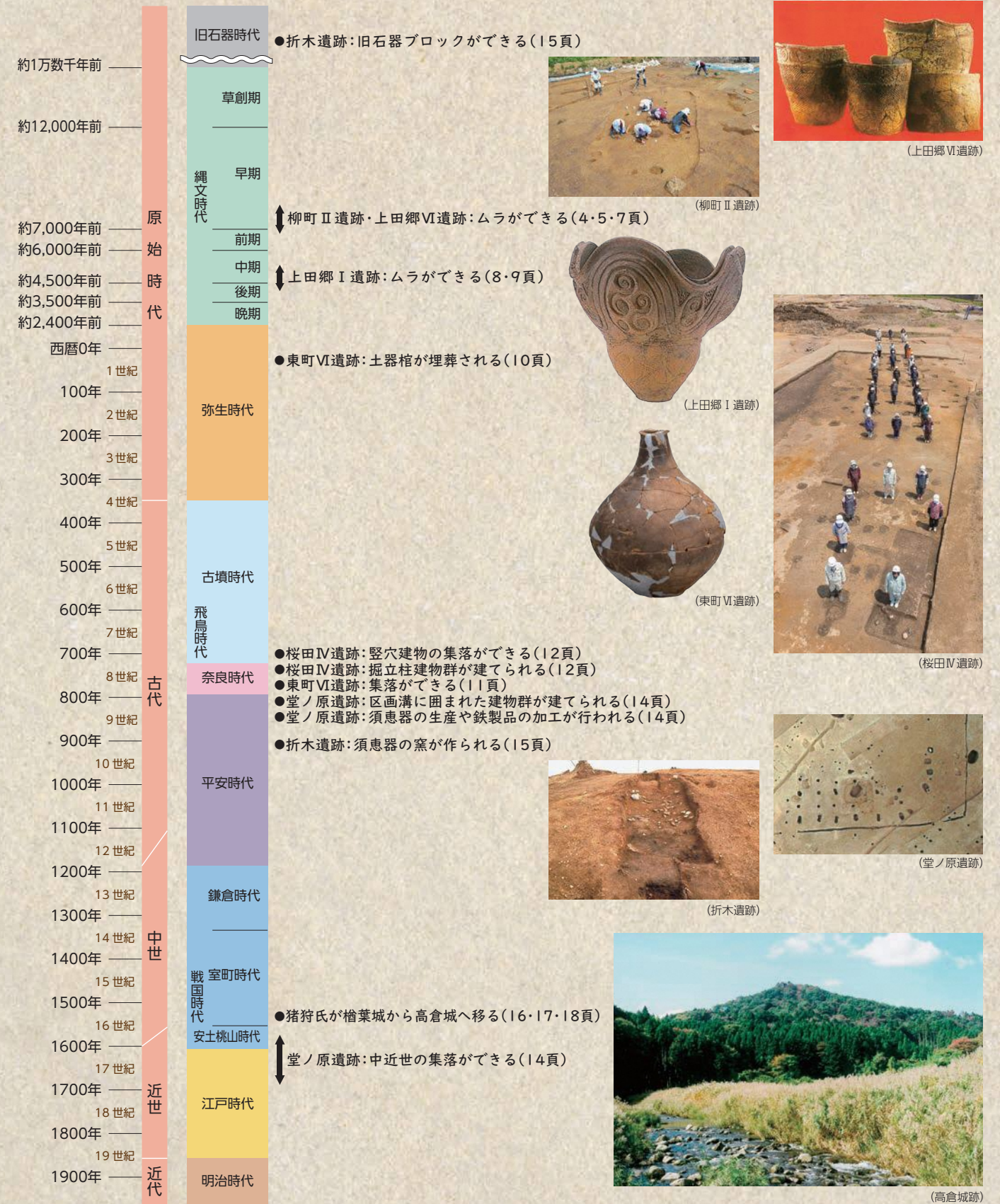


⑥ 岩城氏の大館城跡
範囲は、いわき市好間町大館を中心に、平の松ヶ岡公園の近くまで続いていた。



⑦ 高倉城から見た広野町の風景
高倉山の展望台から東を見ると、高倉城から東禅寺館まで尾根でつながっていることがわかります。

広野町の遺跡と出来事



- この冊子は、広野町に所在する遺跡の中で、発掘調査が行われた遺跡について紹介したものです。
- 発掘調査については、広野町教育委員会が実施した遺跡以外に、福島県教育委員会が実施した遺跡も掲載しています。
- 各遺跡の説明は、それぞれの報告書の内容を要約したものです。写真及び挿図等は、発掘調査時に撮影されたものや報告書に掲載されたものを使用しています。
- 他の機関から提供を受けた写真については、それぞれの写真の下に提供機関名を記載しています。記載のないものについては、広野町教育委員会が所有しています。
- 遺跡の位置を示した地図は、国土地理院の地図検索表示画面から切り抜いたものを使用しています。
- 5頁⑥の地図は国土地理院の色別標高図を参考に作成したものです。
- 縄文時代に関する年代については、最新の研究で一般的に使われている年代を使用しています。
- この冊子に掲載されている写真・図の無断転載及び無断使用を禁じます。



柳町Ⅱ遺跡現地説明会の様子(平成27年6月20日)

● 奥 付 ●

『発見!広野町 一遺跡編一』

2025年3月25日発行

発行／広野町教育委員会 〒979-0402 福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替35 TEL 0240-27-4166
編集／ひろの未来館 〒979-0403 福島県双葉郡広野町大字下浅見川字築地73番地1 TEL 0240-27-2277